

あすなろ療育福祉センターの課題及び検討の方向性について

令和6年7月31日

青森県健康医療福祉部
障がい福祉課

1. あすなろ療育福祉センターの課題

区分		課題
施設・設備	(1) 施設	<ul style="list-style-type: none"> ①昭和59年の建替えから約40年が経過し建物自体が老朽化 ②利用者にとって不便な場所が多い
	(2) 設備	<ul style="list-style-type: none"> ①現在設置されている機器の経年劣化 ②空気配管など基本的な設備の不足
診療部門	(3)	整形外科 ①医療的ケア児の増加への対応 ・医療的ケア児は多様な診療需要を有するが、あすなろには左記の診療科しかないため、ワンストップで受診できないほか、他の医療機関では障害児対応のノウハウがなく受診を断られるケースもあり、家族の負担となっている。
		リハビリテーション科 ②発達障がい児の増加への対応 ・整形外科を受診している患児でも発達障がいを併発していると思われる場合が多く、そうした児童に整形外科医が対応することは困難である。
		小児科 ・発達障がいのみで受診希望があった場合、あすなろには小児メンタルの専門医がいないため、受診を断らざるを得ない状況である。
	(4) 歯科	診療日が限られる
福祉部門	(5) 全体	<ul style="list-style-type: none"> ①医療的ケア児の増加への対応 ・常勤の小児科医が不在ということもあり、短期入所やデイサービスにおいて、医療的ケア児を受け入れることに対して慎重な姿勢が見られる。 ②入所者の重篤化への対応 ③利用児者の減少への対応 ・入所・通所ともに利用児者が減少傾向にある。

2. 「課題」への対応策の検討

(1) 施設

【課題】

- ①昭和59年の建替えから約40年が経過し建物自体が老朽化
- ②利用者にとって不便な場所が多い
 - ・車椅子スロープが1つしかない。
 - ・トイレが狭く、おむつ交換がしづらい。
 - ・遠方からの利用者の待機場所が十分ではない。
 - ・自動ドアがタッチ式ではなく、児童が飛び出す危険性がある。
 - ・玄関の屋根が短く、雨天時の車両からの乗降時に濡れてしまう。

対応策	メリット	デメリット
建物の補修・大規模改修	<ul style="list-style-type: none">・①は一時的に解決する。・②の一部は解決する。・建替や移転と比較して短期的には安価で対応可能となる。	<ul style="list-style-type: none">・②の一部は改善されない可能性がある。
現地での建替	<ul style="list-style-type: none">・①②ともに解決する。	<ul style="list-style-type: none">・建替のため高額な費用がかかる。
現地以外での建替	<ul style="list-style-type: none">・①②ともに解決する。	<ul style="list-style-type: none">・建替及び用地の取得等に高額な費用がかかる。・隣接する養護学校から離れることによりリハビリの利便性が失われる。

(検討の方向性)

- 長寿命化調査の結果を踏まえ、これらの課題解決を踏まえた検討案を整理する。

2. 「課題」への対応策の検討

(2) 設備（手術関係）

【課題】

- ①現在設置されている機器の経年劣化
- ②空気配管など基本的な設備の不足

対応策	メリット	デメリット
機器整備・更新	・①②ともに解決する。	・機器の整備のための費用が生じる。 ・今後も数年ごとの機器更新費用が生じる。
県立中央病院への手術機能の移転	・①②ともに解決する。	・あすなろセンターの診療報酬が減少する。

(検討の方向性)

- 「センター内で整形外科手術を継続」する場合には、現状で約2千万円（※）の機器更新費用が必要となるほか、数年ごとの機器更新費用を負担し続けることとなる。
- 最新の設備での安心・安全な医療の提供という観点等から、「県立中央病院への手術機能の移転」の可否について整理する。

（※）蒸気滅菌装置1,100万円、ガス滅菌装置165万円、無影灯440万円、マニホールド更新297万円
合計2,002万円。

2. 「課題」への対応策の検討

(3) 整形外科・リハビリテーション科・小児科 共通

【課題】

①医療的ケア児の増加への対応 ②発達障がい児の増加への対応

対応策	メリット	デメリット
小児科の診療日数の増加	・①の改善が見込まれる。	・医師の確保が困難。
小児在宅支援センターとの連携強化（あすなろへ移設）	・①の改善が見込まれる。	・担当医師等の確保に支障が生じる可能性がある。
小児メンタルヘルス科の設置	・②の改善が見込まれる。 （現在は受診を断っている発達障がい児への対応が可能となる。）	・医師の確保が困難。

(検討の方向性)

- 「小児科の診療日数の増加」については、常勤の小児科医の確保若しくは派遣されている小児科医の増員が必要となるが、整形外科医の負担軽減や、短期入所等での医療的ケア児の受入増加につながる。
- 「小児在宅支援センターとの連携強化」については、あすなろと小児在宅支援センターにおいて情報の共有化が図られることにより、医療的ケア児への対応改善につながる。
- 「小児メンタルヘルス科の設置」については、医師の確保が困難であるが、実現できた場合には発達障がい児及び家族の負担軽減につながる。

これらを総合的に検討し、診療部門の診療科等を整理する。

2. 「課題」への対応策の検討

(4) 歯科

【課題】
診療日が限られる

対応策	メリット	デメリット
診療日数の増加	・ 予約待ちの解消につながる。	増加のための予算の確保が必要。

(検討の方向性)

- 診療実績を踏まえながら、診療日数の増加を含めた運営体制について整理する。

2. 「課題」への対応策の検討

(5) 福祉部門

【課題】

①医療的ケア児の増加への対応 ②入所者の重篤化への対応 ③利用児者の減少への対応

対応策	メリット	デメリット
小児科の診療日数の増加	・短期入所や放課後等デイサービスでの医療的ケア児の受入が可能となる。(①及び②の改善が見込まれる。)	・医師の確保が困難。
医療的ケア児が利用するサービスの拡充(放課後等デイサービスにおける入浴等)	・医療的ケア児の家族の日常生活における負担の軽減が見込まれる。(①の改善が見込まれる。)	・看護師等の増員及びその予算の確保が必要。
障がい福祉サービスの利用児者数増加のための取組	・利用収入の増加による経営改善が見込まれる。	・特になし。

(検討の方向性)

- 「小児科の診療日数の増加」については、短期入所や放課後等デイサービス等での医療的ケア児の受入促進につながる。
- 放課後等デイサービスにおいて入浴ができるようにする等、障がい福祉サービスの拡充について整理する。
- 「障がい福祉サービスの利用児者数増加のための取組」については、具体的な取組を整理する。

これらを総合的に検討し、福祉部門のサービス内容等を整理する。

3. 「課題」への対応策の検討（取りまとめ）

(1)～(5)での検討の方向性のまとめ

以下の内容について、検討する。

- ①長寿命化調査の結果を踏まえた施設の改修・建替。
- ②整形外科の手術機能の県立中央病院への移転。
- ③小児科を含めた診療科の内容及び診療日数。
- ④小児在宅支援センターとの連携強化及び将来的な併設。
- ⑤歯科の診療日数の増加。
- ⑥障がい福祉サービスの拡充（放課後等デイサービスにおける入浴等）。
- ⑦障がい福祉サービスの利用児者数増加のための取組。